

講座名（専門科目名）	感染制御学	教授氏名	忽那 賢志
学生への指導方針	臨床微生物、感染症疫学、臨床研究など様々なフィールドでの研究が可能です		
学生に対する要望	次世代の感染症のリーダーとなる人材を求めています		
問 合 せ 先	(Tel) 06-6879-5070 (Email) kutsuna@hp-infect.med.osaka-u.ac.jp	担 当 者	忽那 賢志
その他出願にあたっての注意事項等	特になし		

（以下教室紹介）

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）は 1918 年のスペインかぜ以来の 100 年に一度の感染症の流行と表現されることがあります。実際にこの感染症によって世界は根本から揺さぶられ、現在もまだ大きな影響を被っています。この COVID-19 の流行によって、感染症の診断・治療・予防の技術は大きく革新されました。PCR 検査を始めとした検査体制は強化され、また mRNA ワクチンなどの新しいプラットフォームを用いたワクチンは予想以上のスピードで開発されました。

私はこれまでに COVID-19 回復者の免疫獲得に関する研究や、患者情報を集積するレジストリ研究、そして回復者血漿療法という治療薬の開発に関わってきました。この経験を生かし、大阪大学大学院医学系研究科・医学部 感染制御学講座でも発展させていきたいと考えています。

また、この COVID-19 のような規模の感染症が次に流行するのは本当に 100 年後なのかは誰にも分かりません。それは 5 年後かもしれませんし、ひょっとしたら 1 年後かもしれません。今回の COVID-19 で得られた研究成果をレガシーとして、次また新たな新興感染症が流行した場合に備えた研究体制の構築が望まれます。

COVID-19 の流行で明らかになった課題として、感染症専門家の不足が挙げられます。日本感染症学会の専門医は 2021 年 7 月現在約 1600 名であり、他の領域の専門医と比較して十分な数とは言えません。感染症領域では近年、薬剤耐性菌の増加により抗菌薬適正使用の重要性が増しており、感染症専門医の需要は高まっています。また、COVID-19 の流行下では、病院内の診療のリーダーとなるべき感染症専門医が不在であった医療機関も数多くあります。このような中、感染症専門医の育成は喫緊の課題と言えます。また感染症専門医だけでなく、感染管理看護師、細菌検査技師、薬剤師など感染症診療・感染対策に従事する医療従事者がこれまでになく求められている時代となっています。

大阪大学では、将来起こりうる新興感染症の脅威に対する備えとしての研究・教育のための拠点として 2021 年に CiDER 大阪大学感染症総合教育研究拠点が設置されました。私たち感染制御学講座は CiDER と連携し、次世代の感染症診療・感染対策のリーダーとなる人材、特にエビデンスにのっとりた感染症診療・感染対策を実践できるだけでなく臨床の現場からエビデンスを発信する「Physician Scientist」の育成を行い、地域、日本、そして世界の感染症対策に貢献してまいります。